

## 5.4 漂着ペットボトル・ライター等のモニタリング調査

### 5.4.1 目的

発生源の推定につながるペットボトルやライターについて、海岸においてモニタリング調査を継続して実施し、発生源のデータを収集し、効果的な発生抑制対策につなげるための基礎資料に資することを目的とした。

### 5.4.2 期待される効果

第1期モデル調査に引き続きペットボトル及びライターの国内外割合が把握されることで、同割合の経年変化の推定に資するデータが取得される。また、ライターのサンプルを増加させることで、ライターを用いた国内発生源の推定精度の向上が期待される。

### 5.4.3 調査範囲

山形県酒田市(赤川河口部)、福井県坂田市(梶地先海岸～安島地先海岸)、三重県鳥羽市(答志島桃取東地先海岸)、沖縄県竹富町(住吉海岸～星砂の浜～上原海岸)において、第1期モデル調査における漂着ごみのデータを生かしつつモニタリングを行うため、第1期モデル調査と同様の調査範囲とした。

### 5.4.4 調査内容・方法

ペットボトルについては、調査範囲において漂着しているペットボトルを回収し、ラベルやキャップに記載された言語、バーコード及び本体の刻印等に基づいて発生国別(日本、韓国、中国、台湾、ロシア等)に分類・集計を行った。刻印に基づいた分類は、第1期モデル調査の結果を踏まえて整備した「ペットボトル分類マニュアル」に従った。ペットボトルは、調査地区毎にランダムに最大100個ずつ(3地区で300個を上限とする)回収した。100個に満たない場合には回収できる最大数とした。

ライターについては、調査範囲内に漂着しているライター全量を回収し、ラベル、刻印等から発生源の推定を行った。また、ライターの刻印等による国別分類には「ライタープロジェクト ディスポーザブルライター分類マニュアル Ver.1.2」(鹿児島大学 藤枝教授)<sup>1</sup>を利用した。

---

<sup>1</sup> 藤枝 繁(2006)：ライタープロジェクト ディスポーザブルライター分類マニュアル Ver.1.2.

#### 5.4.5 調査工程

平成 21 年度は、表 5.4-1 に示すように、山形県酒田市は 1 回、三重県鳥羽市は 4 回、それ以外では 2 回実施した。

なお、三重県鳥羽市では、三重県による伊勢湾全域海岸漂着ゴミ等実態調査事業が同時期に行われており、サンプリングが不正確にならないように、三重県事業の実施日に合わせて、調査回数を 2 回から 4 回に増やした。

表 5.4-1 調査の実施日

継続モデル地域	調査実施日
山形県酒田市	第 1 回：2009 年 9 月 11 日～12 日
福井県坂井市	第 1 回：2009 年 9 月 7 日 第 2 回：2010 年 1 月 20 日
三重県鳥羽市	第 1 回：2009 年 11 月 19 日 第 2 回：2009 年 12 月 19 日 第 3 回：2010 年 1 月 26 日 第 4 回：2010 年 2 月 16 日
沖縄県竹富町	第 1 回：2009 年 10 月 18 日 第 2 回：2009 年 12 月 26 日

#### 5.4.6 調査結果

平成 21 年度に実施した調査で回収されたペットボトルの全数による国別割合は、図 5.4-1 に示す。山形県酒田市、福井県坂井市、三重県鳥羽市では日本が多く、沖縄県竹富町では中国が多かった。

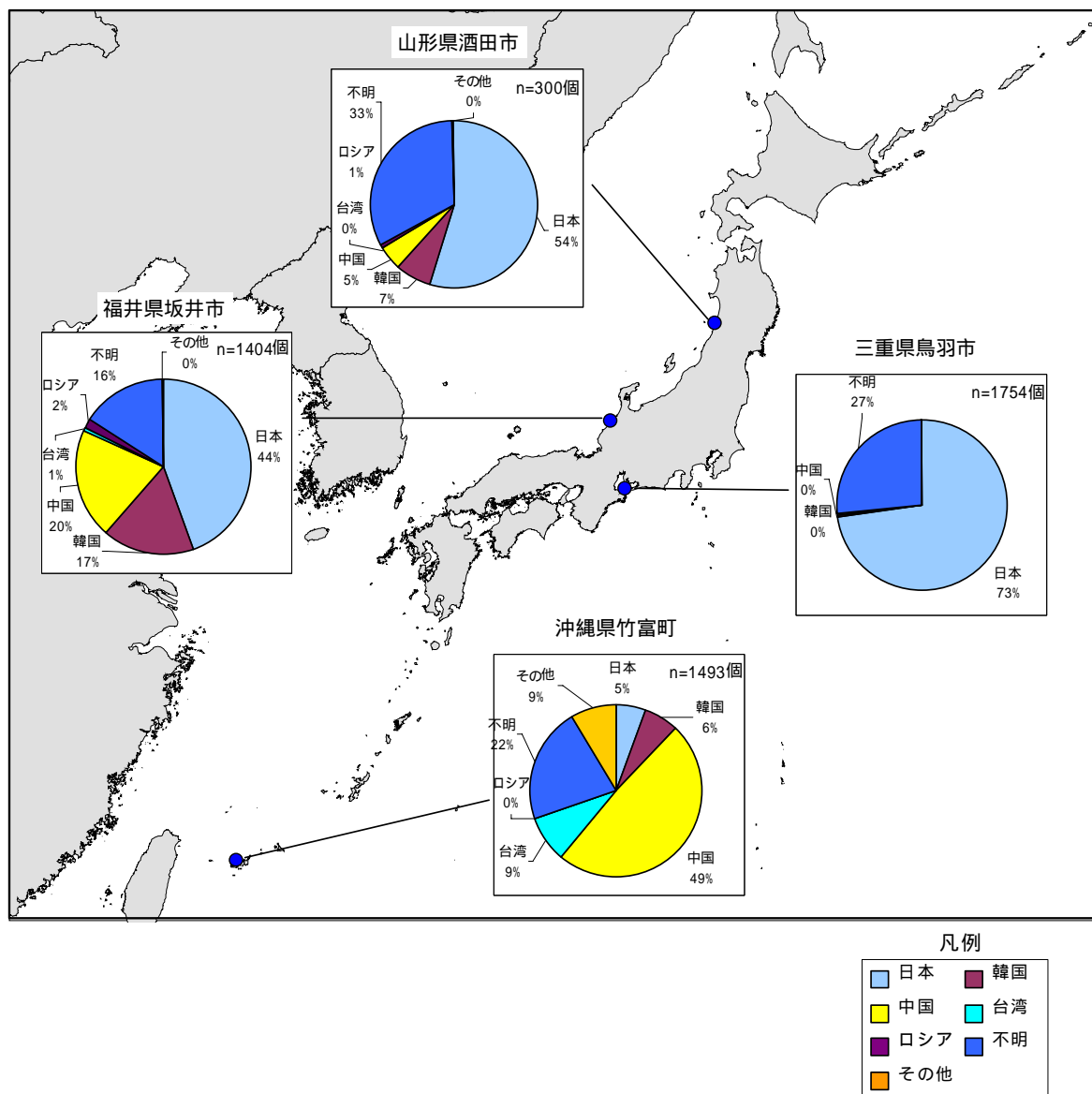


図 5.4-1 継続モデル地域におけるペットボトルによる国別割合

平成 21 年度に実施した調査で回収されたライターの数による国別割合は、図 5.4-2 に示す。山形県酒田市、福井県坂井市、三重県鳥羽市、沖縄県竹富町では日本が多く、福井県坂井市では日本と韓国が多かった。

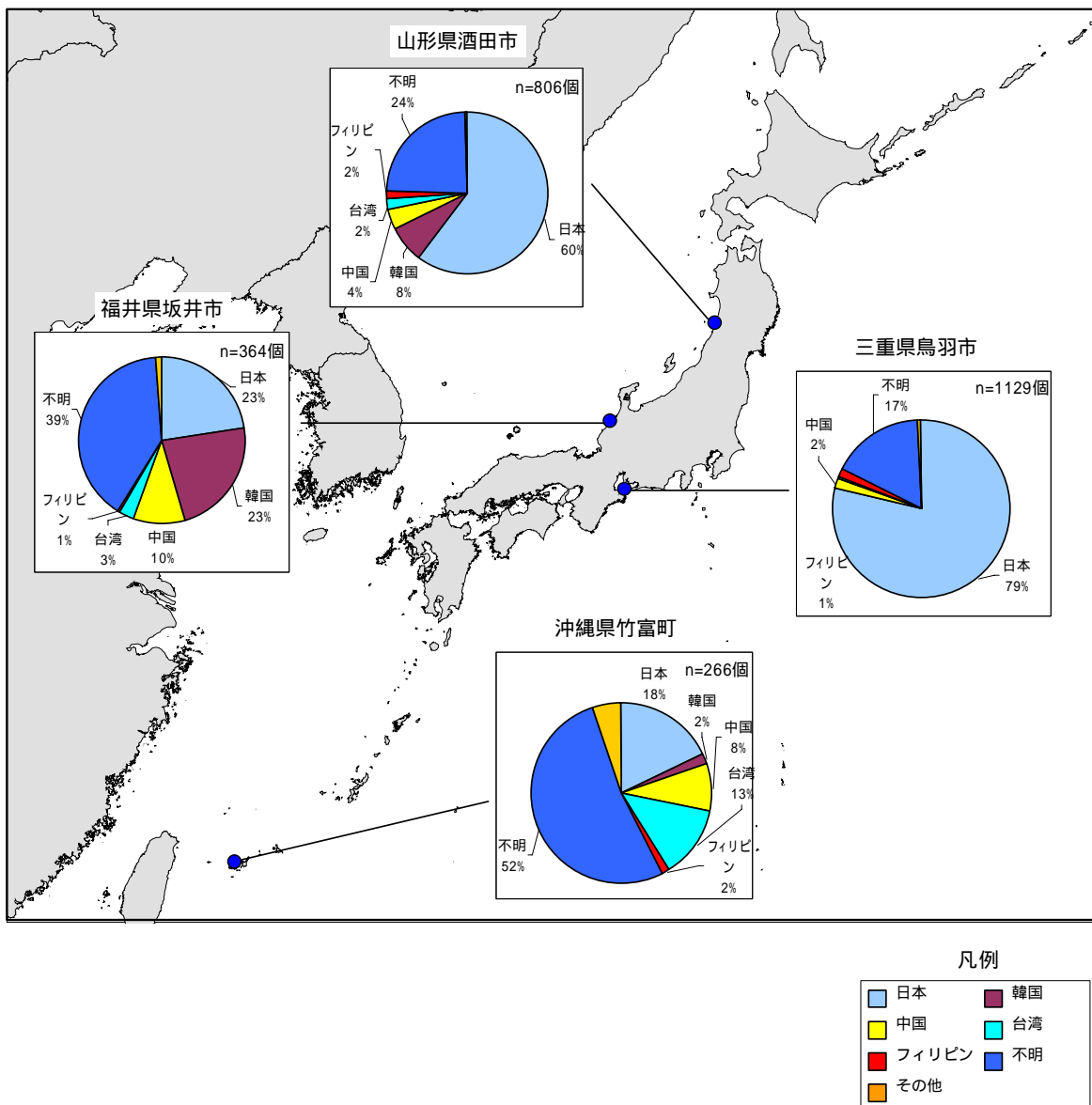


図 5.4-2 継続モデル地域におけるライターによる国別割合